



韓国

29 教育施設拡充事業(2)(3)

A

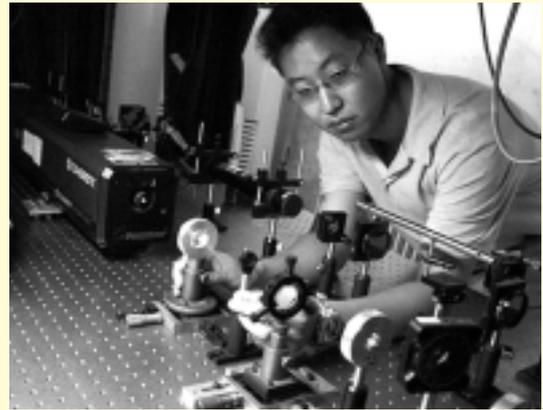
B

C

D

大学等の教育施設に機材を供与することにより、教育水準の質的改善を図るとともに、天文館の建設により科学技術への理解・関心の向上を図り、もって同国の人材育成に寄与する。

承諾額/実行額 188億3,100万円／178億4,400万円
 借款契約調印 1987年8月、1988年6月
 借款契約条件 金利4.25%、返済25年(うち据置7年)、一般アンタイト
 貸付完了 1992年8月、1993年8月



外部評価者 山下武(株)コーエイ総合研究所
 現地調査 2003年8月

評価結果

本事業では、技術革新等によるニーズの変化に対応して購入機材の種類や数量を調整したことを除き、ほぼ計画通りに大学等、教育施設への機材供与および天文館建設が行われた。期間は、機材リストの変更手続きや契約・調達手続きの遅延などにより、計画を大幅に上回ったが、事業費はほぼ計画通りであった。設備充足率(各大学の保有機材の総数/国が定めた実験・実習設備機材数×100)は、審査時(1985年)には43.9%と低水準であったが、第2期事業完成時(93年)には59.6%へ、第3期事業完成時(94年)には65.0%へと向上しており、本事業の機材は、実験、実習等での活用を通じて教育の質的改善に貢献している。第2期事業で建設された天文館は、年平均300日開館し、計画を超える年約12万人※が訪れており、03年7月までの累計入場者数の約75%を占める青少年を中心に、科学技術への理解・関心を高めることに役立つ

ている。また、プラネタリウム等のソフトウェア開発に関する技術移転により、韓国側で計6本のソフトウェアが独力で開発された。92年から99年にかけて、韓国の人口1,000人あたりの研究者および医師の数は約1.5倍に増加しており、本事業は科学技術・医療分野への人材供給に一定の貢献を果たしたと考えられる。各大学、天文館の技術および体制面は問題なく、財務面は良好である。

※ 大阪市立プラネタリウムの年入場者数は約17万人。

第三者意見

本事業は、科学技術に携わる人材の育成に貢献している。時代に合わせて、学部の定員やカリキュラムの見直しを行うことで、長期にわたる効果発現が見込まれる。

有識者 Mr. Taeho Kwon

アジア工科大学博士課程修了(都市計画)。現在世明大学建設工学部助教授。専門は都市開発全般・東南アジア都市/地方開発。

実験、実習に活用される調達機材

シング短期専門大学で調達されたレントゲン装置は、現在でも良好に稼動しており、1週間に4日程度、全学年(1~3年生)の授業の実習などで使用されている。高麗大学で調達された光学式高精度顕微鏡は、科学部の研究室でシリコンベースの半導体メモリーの研究に使用されている。



レントゲン装置



光学式高精度顕微鏡

第2期事業で建設された天文館

天文館では、通常のプラネタリウムや映画の上映のほか、星座の探し方等のイベントを毎月3~4回行っており、2~3日で予約が埋まるなど、評判が良い。



天文館